

投げかける言葉にもっと気を配ってみませんか？

私たち教師が投げかける言葉によって、子どもたちが大きな影響を受けていることはきっとご存じだと思います。私たちは、使い慣れた言葉を子どもたちに投げかけているのですが、たった一言で子どもを傷つけたり、逆に安心させたりすることができます。そんな大切な言葉を大事に扱いたいと思います。ちょっと立ち止まって子どもたちに投げかける言葉に注意を払ってみませんか？

あ 愛情を一杯注ぎ、
す 素敵な言葉で、
な 仲良しの和を広げ、
ろ ロマンをもって子どもを育てたい。

こんな願いをもってあすなろ会を作りました。

<質問> 次のAとBの2つの言い方によって受け止め方が異なります。その違いを感じられますか？

A 「お前はバカか！」

B 「お前がやっていることは、バカなことだ！」

いかがでしょう？同じでしょうか？

<Aの場合>

自分の体全体で受けとめ、自分自身がバカで、何をしてもバカな自分に思えてくるような感覚になりませんか？

<Bの場合>

自分の体全体で受けとめるというよりも、そういう行為はいけないことだという程度で、体の部分で感じる程度になります。Aの場合より自分への影響が弱く感じませんか？

この感じ方の違いを与えているのが言葉の扱い方（言葉の質）です。同じ「バカ」を使っても受け止める子どもへの影響が違ってきます。このちょっとした違いが大きな違いとなっています。

いじめにつながる言葉に「うざい！」「死ね！」「くさい！」などがあります。言葉の質で考えてみると体全体で受け止める言葉の扱いになっています。つまり、相手の存在そのものを否定する言葉になっているのです。また、けんかをして相手をやっつけようとするときの子どもたちは相手に対して、「ばーか」「あほ」などと言いますが、言われた側はこの言葉を体全体で受けとめてしまいます。（この言葉の前に「お前は」があり、省略されています。）

これらの言葉は、受け止めようと思って受け止めるわけではありません。脳が勝手に反応してしまうのです。意識せず、無意識のうちに反応してしまうのです。言葉が大きな影響を与える理由は、ここにあります。

言葉の扱い方一つで、人間関係が変わります。学級が変わります。学校が変わります。保護者や地域が変わります。それほど影響があるのが、言葉です。何気なく使っている言葉に気を配ってみませんか。

無意識のうちに自分がどんな言葉を使っているのかを考えると怖くなってしまいます。